

まちづくり交付金 事後評価シート
小倉都心地区

平成20年12月

福岡県北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 福岡県 | 市町村名 | 北九州市 | 地区名 | 小倉都心地区 | | | 面積 | 380ha | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|--|---|---|--|--|-------|---------------------|---|---|-------------|
| 交付期間 | 平成16年度～平成20年度 | 事後評価実施時期 | 平成20年度 | 交付対象事業費 | 10,320 | 国費率 | 0.4 | | | | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | 基幹事業 | 事業名 道路:紫川東線 地域生活基盤施設:サイン整備 高質空間形成施設:小倉駅周辺歩行者支援施設、小倉駅南口広場景観形成、小倉駅公共通路照明整備、室町1丁目地区市街地再開発周辺、小倉駅南口東地区市街地再開発周辺、巨過第一地区市街地再開発周辺、紫川夜間景観整備、勝山公園整備、花と緑の並木通り整備 | | | | | | | | | | |
| | | 提案事業 | 地域創造支援事業:紫川リバーハウス整備(紫川親水空間施設整備)、城内川河川浄化対策、都心の賑わいづくり推進事業 | | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | 基幹事業 | 事業名 | | 削除/追加の理由 | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | | | |
| | | 提案事業 | - | | - | | - | | | | | | |
| | 新たに追加した事業 | 基幹事業 | 道路:博多町線、国道199号、大手町金田1号線、小倉港線 公園:堺町公園 地域生活基盤施設:砂津地区臨海部防災拠点整備 既存建造物活用事業:子育て支援プラザ整備 | | 道路:都心への道路ネットワークを整備し、アクセス利便性を高めるため 公園:より一層の安全・安心に配慮した交流空間づくりを行うため 地域生活基盤施設:都市の防災機能を高め安全・安心なまちづくりを推進するため 既存建造物活用事業:子育て世代が利用できる施設を整備し賑わいを創出するため | | まちづくりの目標の達成に向け、プラスの影響がある。特に目標2(多くの人が集まって、便利に、安心・安全に暮らすことができる都心をつくる)、目標3(人や産業の交流が活発に円滑に行われる、交通機能の充実した都心をつくる)への効果が大きい。 | | | | | | |
| 提案事業 | | 地域創造支援事業:小倉駅南口広場景観形成、小倉城整備事業、北九州国際会議場防水対策事業、都心部ヒートアイランド対策推進事業、堺町安全・安心センター建設事業、ITを活用した観光基盤整備事業、若者ワークプラザ北九州整備事業 | | 地域創造支援事業:計画の目標を踏まえ、有効性の高い事業や今後のまちづくり推進に向けた事業を追加 事業活用調査:事業の実施効果を確認し、今後のまちづくり方を検討するため | | まちづくりの目標の達成に向け、プラスの影響がある。特に目標2(多くの人が集まって、便利に、安心・安全に暮らすことができる都心をつくる)、目標4(個性的な魅力とアメニティの豊かさによって、多くの人をひきつける都心をつくる)への効果が大きい。 | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | 当初 | - | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | - | | | | | | | |
| | 変更 | - | | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | |
| | 指標1 | 小倉都心の年間小売売上額 | 億円/年 | 1,970 | 平成14年度 | 2,000 | 平成20年度 | 2,070 | 1,990 | | あり | 目標未達成となったが、事業期間中に郊外大型ショッピングセンター等が開業したこと等を勘案すると、事業による一定の効果は発現しているものと考えられる。 | 平成22年度 |
| | 指標2 | JR小倉駅の年間乗降客数 | 万人/年 | 2,890 | 平成14年度 | 2,590 | 平成20年度 | 2,760 | 2,704 | | あり | 小倉駅南口広場景観形成事業や都心の賑わいづくり推進事業等により効果が発現し目標を達成した。 | 平成21年度 |
| | 指標3 | JR西小倉駅の年間乗降客数 | 万人/年 | 189 | 平成14年度 | 225 | 平成20年度 | 308 | 334 | | あり | 室町1丁目地区市街地再開発周辺事業や都心の賑わいづくり推進事業等により効果が発現し目標を達成した。 | 平成21年度 |
| 指標4 | 魚町・京町商店街における歩行者通行量 | 人/日 | 35,000 | 平成14年度 | 32,000 | 平成20年度 | 31,000 | 29,792 | x | あり | 一定の間接的な効果は発現しているが、長期的な減少傾向に歯止めをかけるまでには至っていないため、目標未達成となった。 | 平成21年度 | |
| 3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 ¹⁾ | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 |
| | その他の数値指標1 | 勝山橋歩道における歩行者通行量 | 人/日 | 8,900 | 平成15年度 | | | | 8,153 | | | 従前値のレベルまでには至っていないものの、H16、H19調査の大幅な落ち込みからは回復しており、一定の間接的な効果は発現しているものと考えられる。 | 平成21年度 |
| 4) 定性的な効果発現状況 | 子育て支援プラザの満足度が高く、リピータが多いなど、市民への認知が高まっている。市民参加(ボランティア)による勝山公園「うるるちゃ花壇」の運営が行われるなど、市民のまちづくりへの参加意識が向上している。 | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | | | | 実施内容 | | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | |
| | モニタリング | 指標1～4に関するモニタリング(平成19年12月) | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | モニタリングの結果から、環境の変化に応じた数値目標の適正化を行うことができた。今後も適宜、目標の達成状況をチェックしていく。 | | | | | |
| | 住民参加プロセス | なし | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | なし | | | | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | なし | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | なし | | | | | |

様式2 - 2 地区の概要

小倉都心地区(福岡県北九州市) まちづくり交付金の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 |
|--|--------------------|------------------------|------------|------------|
| 大目標：小倉都心部の魅力を高め、集客活性化を図るため、北九州200万都市圏の中核に相応しい高次な都市機能の充実と、都心部の賑わいづくりを推進する。 目標1：200万都市圏の交流拠点として、楽しむ場や働く場が充実した、賑わいのある都心を作る 目標2：多くの人が集まって、便利に、安心・安全に暮らすことができる都心をつくる 目標3：人や産業の交流が活発に円滑に行われる、交通機能の充実した都心をつくる 目標4：個性的な魅力とアメニティの豊かさによって、多くの人をひきつける都心をつくる | 小倉都心の年間小売売上額 | 単位：億円 / 年 1,970 H14 | 2,000 H20 | 1,990 H20 |
| | JR小倉駅の年間乗降客数 | 単位：万人 / 年 2,890 H14 | 2,590 H20 | 2,704 H20 |
| | JR西小倉駅の年間乗降客数 | 単位：万人 / 年 189 H14 | 225 H20 | 334 H20 |
| | 魚町・京町商店街における歩行者通行量 | 単位：人 / 日 35,000 H14 | 32,000 H20 | 29,792 H20 |

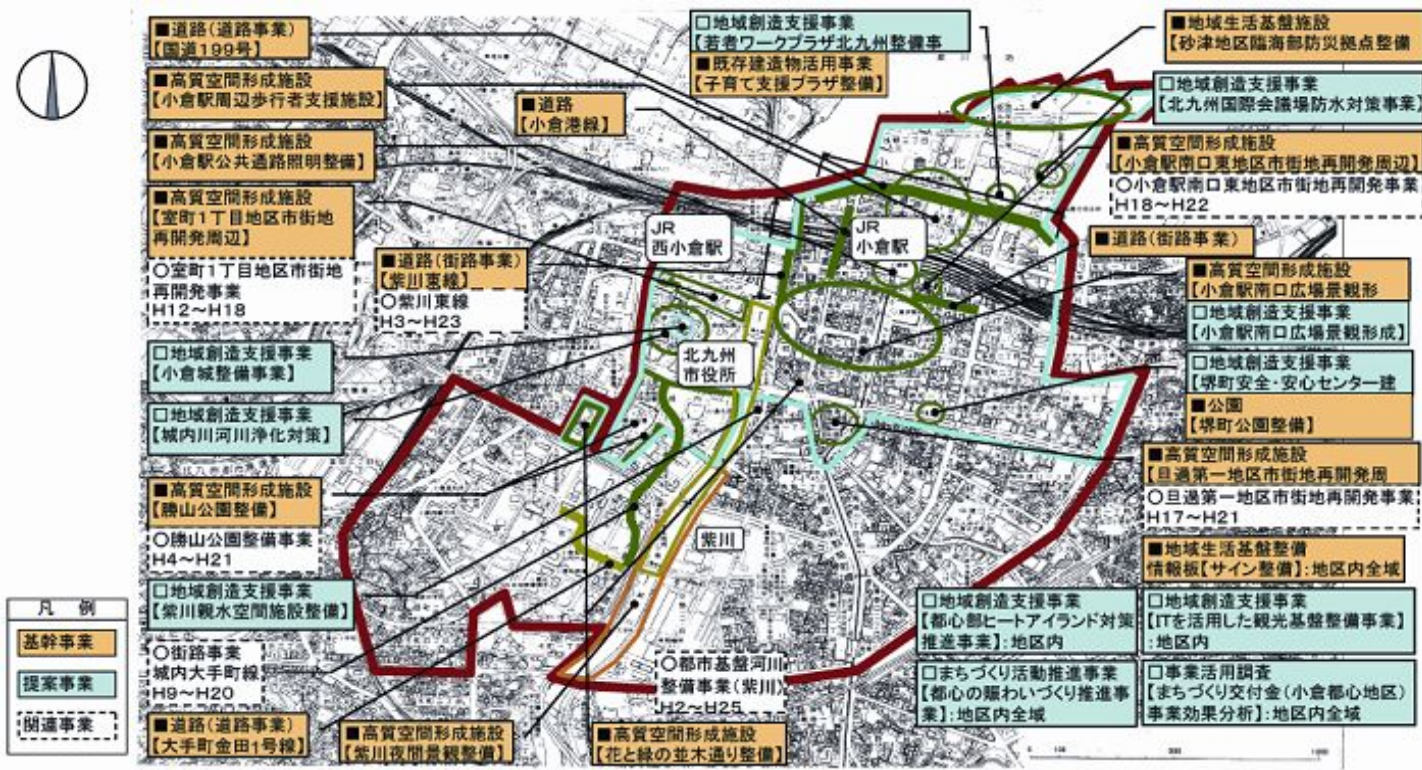
室町1丁目地区市街地再開発周辺



勝山公園整備



大手町金田1号線



子育て支援プラザ整備



花と緑の並木通り整備



紫川親水空間施設整備



まちの課題の変化 様々な事業により都心の賑わいづくりが一定程度達成されたものの、賑わいが面的に拡大するまでは至っておらず、一層の回遊性の確保と沿道の魅力づくりが課題となっている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む) 風格、活気、環境が調和したまちづくりを進め、北九州市都市圏の都心として圏域の発展を牽引するような、躍動的で魅力的なまちづくりを進める。広域都市圏の都心として、歴史や文化の香り高く良好な景観を備えるなど、都市のシンボル空間として格調の高いまちづくり。高次な交通結節機能や交通ネットワークが充実した、内外からアクセスしやすく、また歩いて楽しい安全・安心なまちづくり。商業・集客施設を中心とした魅力の高い多彩な機能が集積し、人・モノ・情報が集まり新しい価値を発信し続ける、賑わいあふれるまちづくり。質の高い居住環境のなか、多世代が誇りと愛着をもって都市居住を楽しむことができるよう、便利で快適なまちづくり。世界に開かれた環境首都として、ハード・ソフトの両面から環境負荷の小さい産業・交通・生活等を実践するなど、先導的なまちづくり。